

製品名: CYP7B1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab09678**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	58kDa

抗原情報

遺伝子名	CYP7B1
別名	CYP7B1; 25-hydroxycholesterol 7-alpha-hydroxylase; Cytochrome P450 7B1; Oxysterol 7-alpha-hydroxylase
遺伝子 ID	9420.0
SwissProt ID	O75881
免疫原	抗血清はヒトシトクロム P450 7B1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 101-150

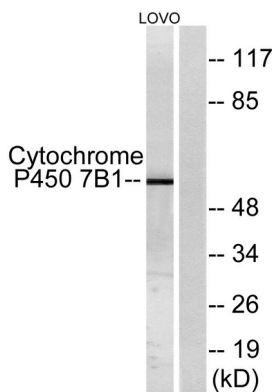
背景

この遺伝子は、シトクロム P450 スーパーファミリーに属する酵素をコードしています。シトクロム P450 タンパク質はモノオキシゲナーゼであり、薬物代謝やコレステロール、ステロイド、その他の脂質の合成に関わる多くの反応を触媒します。この小胞体膜タンパク質は、肝外組織のコレステロール分解経路における最初の反応を触媒し、コレステロールを胆汁酸に変換します。この酵素は胆汁酸合成において小さな役割を果たしていると考えられますが、動脈硬化、神経ステロイド代謝、性ホルモン合成にも関与している可能性があります。この遺伝子の変異は、常染色体劣性疾患である遺伝性痙性対麻痺 (SPG5 または HSP) と関連付けられています。[RefSeq 提供、2016 年 4 月]、触媒活性: コレスト-5-エン-3-ベータ、25-ジオール + NADPH + O(2) = コレスト-5-エン-3-ベータ、7-アルファ、25-トリオール + NADP(+) + H(2)O、触媒活性: コレスト-5-エン-3-ベータ、27-ジオール + NADPH + O(2) = コレスト-5-エン-3-ベータ、7-アルファ、27-トリオール + NADP(+) + H(2)O、補因子: ヘム基、疾患: CYP7B1 の欠陥は、先天性胆汁酸合成欠損症 3 型 (CBAS3) [MIM:603711] の原因です。臨床症状には、重度の胆汁うっ滞、肝硬変、肝合成不全などがあります。肝臓ミクロソームオキシステロール 7- α -水酸化酵素活性は検出されない。、疾患: CYP7B1 の欠陥が、痙性対麻痺常染色体劣性 5A 型 (SPG5A) [MIM:270800] の原因である。痙性対麻痺は、下肢のゆっくと徐々に進行する筋力低下と痙性を特徴とする神経変性疾患である。症状の進行速度と重症度は非常に多様である。初期症状には、バランスを取るのが難しい、脚の筋力低下と硬直、筋肉のけいれん、歩行時のつま先引きずりなどがある。疾患の種類によっては、膀胱の症状 (失禁など) が現れたり、筋力低下と硬直が体の他の部分に広がったりすることがある。、経路: 脂質代謝;胆汁酸の生合成。、類似性:シトクロム P450 ファミリーに属する。、組織特異性:脳、精巣、卵巣、前立腺、肝臓、結腸、腎臓、小腸。、

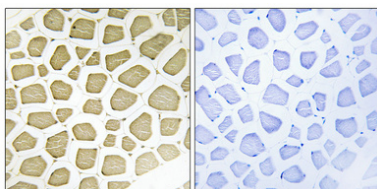
研究分野

一次胆汁酸生合成;ステロイドホルモン生合成;

画像データ



シトクロム P450 7B1 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト骨格筋の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高温高压トリス EDTA (pH8.0) を用いた。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。